

## 令和3年度 1月定例会会議録

- ◎招集年月日 令和4年1月24日
- ◎開催日時 令和4年1月27日(木) 午後3時00分～午後4時50分
- ◎場所 伊那市役所 2階 議会第二委員会室
- ◎出席委員 笠原教育長、北原教育長職務代理人、田畑教育委員、黒河内教育委員
- ◎欠席委員 原田教育委員
- ◎出席職員 馬場教育次長、宮下学校教育課長、北林生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小松指導主事、福與指導主事、伊藤教育総務係長

### 1 開 会

### 2 あいさつ 教育長

- ・笠原教育長(あいさつ)  
保護者、感染の拡大に落ち着いて対応いただきありがたい。

### 3 委員のひと言

- ・原田教育委員欠席のためなし

### 4 会議事項

#### 第1 教育長報告

- ・資料に基づき教育長報告  
(質問・意見なし)

#### 第2 協議事項

- (1) 卒業式および入学式の日程について
  - ・学校教育課課長から資料に基づき説明。  
(質問・意見なし)

#### 第3 報告事項

- (1) 『中学生の実習室2022冬』実施報告について
  - ・学校教育課長から資料に基づき説明。  
(質問・意見なし)
- (2) 令和3年度の市成人式について
  - ・生涯学習課長から資料に基づき説明。
  - ・教育委員より「西箕輪公民館に出席したが、出席者13名ということで全体の出席率の部分で、評価される部分あると思うが、実際出られた新成人の挨拶も非常に思いの入った挨拶があり、次の時代を担う若い人たちに期待が持てるなど感じた。また恩師の方も、遠方からの先生についてはやはり感染症のこともあり出席を控えていたが、地元の先生に来ていただき、昔の話に花が咲くというのがあり、開催していただいてありがとうございますというお声掛けを現場でも直接いただいた。参加者にとっては非常にやっていただいて良かったという思いが残った。」との意見があった。
  - ・教育委員より「美篤公民館へ出席したが、恩師の先生3人からそれぞれお話をいただいたし、良い会だと思う。感想として白鳥市長からのメッセージが、伊那市の今の取り組みについて非常に分かりやすい内容になっており、成人式の場で伝えることは良い事だと思った。一方式辞の文章は、送られた式辞の内容を、それをそのまま読まなくて良いので、自分なりでと

言われるものの、あまり内容を省略してもいけないといつも迷ってしまう。全くそれぞれということであれば、式辞は壇上に残してくるものであるし、毎年必ず成人式があるので、事前にある程度練って、こういうことを伝えて盛り込もうというようなことを議論したても良いのかもしれない。」との意見があった。

- ・教育長から「それぞれの地区の特色を織り込みながら担当が原案を作り、それを配布したが、出席した方の言葉を織り込みながら作成することは難しいと思う。良いご意見をありがとうございました。」との発言があった。
- ・教育委員から「高遠地区へ出席したが、皆さんが開催したことを大変喜び、新成人としての緊張感というか決意を感じられた良い式だった。感染対策をきちんとしてあり、それほど拡大はしていない時期でもあり、そういった意味でのあまり心配なく集中してできたかと思う。式辞の内容については、会場の特色として、今回高遠では校歌から引用した素晴らしい表現の提案をいただき、自分のことを少し加えた。かなり私の参加した担当公民館の方でしっかりやってくくださった。」との意見があった。

### (3) 2月以降の文化施設の催し等について

- ・生涯学習課長から資料に基づき説明
- ・教育長より「厳しい状況の中ではあるが、実施できるものは実施していく。」との補足があった。
- ・教育委員から「中止となった『高遠の今昔』についてはまだまだ見たいという意見がある。検討いただきたい。」との意見があり、生涯学習課長から「歴史博物館の現場の方でも聞いており、非常に残念だということなので、他の展示を調整することで可能になるかもしれないので、検討していきたい。」との回答があった。

### (4) 共催・後援について

- ・学校教育課長より資料に基づき説明

### (5) その他

#### ○長野県まん延防止等重点措置の適用この対応について

指導主事より資料に基づき説明

- ・指導主事より「準備を着々進めるようにという指示を発信してあったので、今日の校長会は先生方が落ち着いており、質問が山ほど出るという状況ではなく粛々と受けていた。2.3の質問等あったが、校内での分散授業や、感染対策、家族のことなど最終確認した。校長先生が準備しながら受け止め、いざあってはならないがクラスターが発生した時にも、こういうふうが発生するとか、分散登校についてもシミュレーションをしておくように伝える。現在のところ伊那市では実施しないとのことだが、それについても本当に落ち着いた形で聞いていたと思う。」との説明があり、教育長から「全く同感。大変静かな中で緊張感を持ってそれぞれが聞いていた。」との補足があった。
- ・教育委員より「先日の辰野町で起きたクラスターの時の反応は、攻撃的な反応する方もいて、実際かなり風評や、直接的な攻撃があったように聞いている。これから伊那市でも各学校でクラスターのようなことが発生した時の誹謗中傷に対する事前の心構えや体制等、辰野町の経験を踏まえて、シミュレートしておいた方が良いのではないかと。同じ郡内の中で実際に起きて、新聞の紙面の中でもその辺の事実が報道されるレベルのことが起きているので、内情を含めて、把握しておく必要がある。企業側の情報では、コロナ感染は本当にすぐそこまで来ていて、簡易型のPCR検査のキットが市場の中で品薄になるなど、現場は混乱している。保健所もオミクロンになる前後で、濃厚接触者の判断基準の扱いも変わり、東京中心に医療現場がひっ迫している状態の中で、大人も含めて非常に迷うという状況が起きてきている。

もう一步進めて、その辺りの情報が混乱することも想定しながら、ここで書いている判断基準、しっかりしたものがこれですということであればここをぶらさずに判断していくという姿勢も大事ではないか。」との意見があり、指導主事から「御意見を踏まえながら、しっかり対応を進めていきたい。」、また、教育長から「同じエリアの教育委員会間でも、情報共有はあるいは、情報提供しながら少しでも適切な対応をしていけるようにしていきたい。」旨の回答があった。

○令和4年度伊那市教育委員会の取組について（議会所信表明から）

教育長より資料に基づき説明

- ・教育委員から「学びを止めない政策は、コロナ禍 Web でも教育を受けますということで良いが、給食を止めないについては保護者から給食費は学校休校になったらどうなるのかとの話がある。家でご飯が食べられない子がいる中で、給食を止めない取り組みについて具体的に聞かせてくださいと言われた時に、新しい取り組みでこんなことを考えているとか、具体的な発言があると良い。」との意見があり、指導主事より「福祉としての学校というところもあるので、分散登校等もあり表現の仕方も検討する必要がある。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「教育委員会の中だけの動きでなく、福祉部門と連携して、家に居る子に、コロナ休校期間中は食事を届けるくらいの感じのイメージがあると良い。」との意見があり、教育長から「私達が取り組もうとしていることと繋がってくるところは、1つ目はフードバンクの取り組み。2つ目は中学生の自習室の取り組みで、こどもたちが食べることができるように考えていく。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「学級閉鎖なりで学校に来られない時の給食費はどうなるか」との質問があり、教育長から「基本的に会計によって返すことも有り得るが、プール計算でやっていくので、実際には年間で均しながら使っていくもの。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「食べられなかった者に対して、このあくまでもコロナ禍の中にあってという文面の中で、パン一つを届けるとかはどうか。」との意見があり、指導主事から「今は、一切パンを届ける事はできないこととなっている。」と回答があった。
- ・こども相談室長から「こども相談室では食事のセットを届けている。生活困窮の世帯で、要養護児童、虐待など、保護しなければいけない家庭に限っている。経済的な困窮家庭については、食事を届けながら、栄養確認も行っている。」との回答があった。
- ・教育委員から「例えば、災害備蓄米のアルファ米で、経済状況に関係なくコロナの時に、何日分かを非常食として届けて食べるように利用できないか。これを学校やれば、給食を止めないにつながるのではないか。給食について賛否あるかもしれないが、何かそこに対して配慮していることをメッセージとして届けられると良いのではないか。」との意見があり、教育長より「給食を止められて、こういう形で入ってくるのは、給食の守備範囲を超えてしまう。すごく魅力的ではあるが、むしろ少なくともブレーキを少しかけたような表現にしないと言葉が独り歩きしてしまう。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「あくまでコロナ禍と謳っているので、この緊急事態においてという思いがあって、むしろ走ってもらおうと周りが出てくる部分もある。」との意見があり、教育長から「大事なことなので検討していきたい。」旨の回答があった。
- ・教育委員から「こども相談室中間教育学校との連携による不登校等児童生徒の日常的支援という部分で、こどもの通学する学校の様子の中で、最近感じたことがある。一言で言うと保健室の役割だが、保健室の保健の先生によって、雰囲気は様々あるということで、不登校の傾向にあるようなこどもにとっては非常に貴重な居場所である。保健室の先生が学校の組織の中で、どういうことを担うべきと、定義づけられているかと、医学的に、何かあった時に対応に加えて、不登校のこどもの居場所となるべき環境を作るということについて、保健室のあり方にもう少し光を当て、別にこの文書に盛り込む、盛り込まないではないが、こども

の様子からそんな話を聞いたので、共有させていただきました。」との意見があり、教育長から「貴重なご発言。保健室の相談機能の充実はまさに、今委員ご指摘の内容です。具体的な文言にはできにくいところと思う。学校へは注意していきたい。」旨の回答があった。

- ・教育長職務代理者から「今回の重点として、コロナ禍ではあるが、前向きに充実させるべきことが明確になっている。」との意見があった。
- ・指導主事から「給食費の返金については伊那市では明文化されており、5日間連続以上給食が止まった場合は返金する。」と補足があり、教育委員から「新型コロナ限りのことと言えば、今の5日を短くするとかできれば良いのでは」との意見があり、指導主事より、「給食材料の発注の関係があるため難しいと思われるが確認する。」旨の回答があった。
- ・教育委員より「返金する原資がないという議論だと思うが、この場合はこどもの側に立って、市の財政としては赤字になっても返すと決めてしまえば、可能か。」との質問があり、教育長から「大変重たい課題。検討していく」旨の回答があった。

○学齢児童生徒の就学免除取下げについて

学校教育課長から資料に基づき説明

(意見・質問なし)

5 その他(教育次長)

(1) 2月の日程について

(2) 3月以降の主な日程について

教育次長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

(3) 令和4年度年間諸会議等日程案について

学校教育課長から資料に基づき説明

(質問・意見なし)

6 閉 会